

事 務 連 絡  
平成28年1月20日

各都道府県消防防災主管課 } 御中  
東京消防庁・各指定都市消防本部 }

消防庁予防課

## 開放式石油ストーブ（リコール対象製品）に関する火災について

平素から消防行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年12月に、株式会社コロナが製造した開放式石油ストーブ（リコール対象製品）及びその周辺を焼損する火災が発生し、1名が死亡したことを受け、消費者庁から別添のとおり、当該製品を含む同社のリコール対象製品について注意喚起がなされていますので、情報提供いたします。

貴職におかれましては、製品火災に関する注意喚起や火災原因調査等の参考として下さい。

なお、本件の問い合わせ先や詳細は下記をご参照下さい。

各都道府県消防防災主管課におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含み、東京消防庁、各指定都市消防本部を除く。）に対し、この旨周知していただきますようお願いいたします。

## 記

### 【当該製品のリコールに関する問い合わせ先】

●株式会社コロナ お客様相談窓口

電話番号：0120-623-238

U R L： <http://www.corona.co.jp/report/oshirase.html>

### 【参考情報】

消費者庁：「消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について（平成28年1月19日）」

U R L： [http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/release/pdf/160119kouhyou\\_1.pdf](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/release/pdf/160119kouhyou_1.pdf)

消防庁予防課

担 当 齋藤・竹葉

電 話 03-5253-7523

F A X 03-5253-7533

E-mail: [t.takeba@soumu.go.jp](mailto:t.takeba@soumu.go.jp)

平成28年1月19日

## 消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について

消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告のあった重大製品事故について、以下のとおり公表します。

## ○特記事項あり

石油ストーブ（開放式）に関する事故（リコール対象製品）について

（詳細は次頁以降参照）

- |   |    |
|---|----|
| 1. ガス機器・石油機器に関する事故<br>（うち石油ストーブ（開放式）2件）   | 2件 |
| 2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、<br>製品起因が疑われる事故<br>（うちベビーカー1件、電熱手袋（充電式）1件、扇風機1件、<br>照明器具2件）                 | 5件 |
| 3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、<br>製品起因か否かが特定できていない事故<br>（うちユニットバス1件、電気こんろ1件、<br>携帯電話機（スマートフォン）1件、電気冷蔵庫1件） | 4件 |
| 4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議（※）<br>において、審議を予定している案件<br>該当案件無し                                  |    |

1. ～ 4. の詳細は別紙のとおりです。

※正式名称は「消費者安全調査委員会製品事故情報専門調査会及び消費経済審議会製品安全部会製品事故判定第三者委員会合同会議」という。

## 5. 留意事項

これらは消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づく報告内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、事故原因等に関し、消費者庁として評価を行ったものではありません。

（管理番号A201500434を除く。）

本公表内容については、速報段階のものであり、今後の追加情報、事故調査の進展等により、変更又は削除される可能性があります。

## 6. 特記事項

株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）について（管理番号A201500659）

### ①事象について

株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が死亡しました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

### ②当該製品のリコール（無償点検・修理）について

同社は、当該製品を含む2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ及び石油温風暖房機（石油ファンヒーター）（下記③）に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）については、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと使用者が誤認する「半ロック状態」になる事象が発生する可能性があることから、事故の再発防止を図るため、2008年（平成20年）9月17日にプレスリリース及びウェブサイトへの掲載、翌18日に新聞社告を行い、また、販売店の店頭及び消費者へのアフターサービス訪問時におけるチラシ配布、テレビCM等により、石油ストーブ等に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）使用時の注意喚起を行うとともに、2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ等の給油タンクについて、無償点検・修理（給油口蓋の半ロック状態を防止するため、蓋の開閉ちょうつがい部にスプリング機能を追加）を実施しています。

さらに、2011年（平成23年）2月から、これまでの対策に加え、灯油販売所への店頭チラシの配布、同社の石油暖房機器全般の販売時におけるチラシの同梱を行い、引き続き、注意喚起及び啓発PRを実施しています。

なお、今般報告のあった当該事故（管理番号A201500659）が上記のリコール事象によるものかどうかは現時点では不明です。

### ③対象製品：対象製品名、機種・型式、製造期間、製造台数

- ・対象製品名：コロナ石油ストーブ等に付属の給油タンク（よごれま栓タンク）
- ・機種・型式：2000年（平成12年）以前に製造されたコロナ石油ストーブ等で、次の表に示す型式に該当するもの
- ・製造期間：1987年～2000年

石油ストーブ(反射型)

製造年(西暦)	型 式			
1987	SX-1800DX	SX-2200DX		
1988	SX-1800	SX-2200	SX-1800DXA	SX-2200DXA
1989	SX-1810	SX-2210	SX-3000	
1990	SX-1820	SX-2220	SX-3020	
1991	SX-1840	SX-2240	SX-3040	
1992	SX-1850	SX-2250	SX-2250X	SX-3050
1993	SX-1860	SX-2260	SX-3060	
1994	SX-1870	SX-2270	SX-3060	
1995	SX-1880Y	SX-2280Y	SX-3080Y	
1996	SX-1800Y	SX-2200Y	SX-3080Y	NX-22Y
	RX-D18Y			
1997	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-B35Y	SX-B27WY
	NX-26Y	RX-B21Y	RX-B26Y	
1998	SX-C210Y	SX-C260Y	NX-26Y	
1999	SX-D27WY			
2000	SX-E210Y	SX-E260Y	SX-E21Y	SX-E26Y
	SX-B35YA	SX-D27WYA	NX-26YA	KM-D27WY

石油ファンヒーター

製造年(西暦)	型 式			
1993	FH-3360AYL			
1994	FH-2570Y	FH-3270Y	FH-3370AYL	GT-2570Y
	GT-3270Y	FK-F250	FK-F320	KH-A25Y
	KH-A32Y	KH-3207Y		
1995	FH-2580Y	FH-3280Y	FH-5580Y	FH-2580AY
	FH-3380AY	NH-2580Y	NH-3280Y	GT-2580Y
	GT-3280Y	KH-B25Y	KH-B32Y	FK-G250
	FK-G320	AH-3280Y		
1996	FH-A30Y	FH-A37Y	FH-A47Y	FH-A60Y
	FH-A30AY	FH-A37AY	NH-A30Y	NH-A37Y
	GT-A30Y	GT-A37Y	GT-A30YJ	KH-A30WS
	KH-A37WS	KH-C30Y	KH-C37Y	FK-H30
	FK-H37			
1997	FH-B30AY	FH-B37AY	FH-B30BY	FH-B40BY
	FH-B50BY	FH-B62Y	NH-B30BY	NH-B40BY
	GT-B30BY	GT-B40BY	KH-B30WS	KH-B40WS
	KH-D30BY	KH-D40BY	FK-J30	FK-J40
1998	FH-C320BY	FH-C430BY	FH-C530BY	GT-C30Y
	GT-C32BY	GT-C53BY	FK-K32	FK-K53
	KCF-A300			
1999	FH-D320BY	FH-D430BY	FH-D530BY	FH-MD30Y
	GT-D30Y	GT-D32BY	GT-D43BY	GT-D53BY
	GT-EG30Y	GT-KS30Y	FK-L30	FK-L32
	FK-L43	FK-L53		
2000	FH-E62Y	FH-EX32BY	FH-EX43BY	FH-EX53BY
	FH-ES32BY	GT-E30Y	KM-30Y	KS-E30Y
	FK-M30	FK-M32	FK-M43	FK-M53
	FJ-V30Y			

- ・ 製造台数：石油ストーブ 2, 090, 000台
- 石油ファンヒーター 4, 270, 000台
- 計 6, 360, 000台

2008年(平成20年)9月17日からリコール(無償点検・修理)を実施  
 改修率：1.7%(2015年12月31日時点)

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故(管理番号A201500659)発生以前の、当該製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2015年度	1	火災	2012年度	1	火災
2014年度	2	火災	2011年度	0	—
2013年度	1	火災	2010年度	1 1	火災・軽傷1名 火災

## <対象製品の外観>



(写真はS X-D 2 7 W Y A)



(当該製品の給油タンク)

## <対象製品の確認方法>

	<b>【製造年の表示位置】</b>	<b>【対象製品の製造年】</b> (1987年製から1995年製の製品には製造年表示がありません。)
	△△年製	2000年製 <b>00年製</b> ↑ 1996年製 <b>96年製※</b> 及び <b>製造年表示のないもの</b> ※ファンヒーターについては94年製以降製造年表示があります。

### ④消費者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ製造事業者の行う無償点検・修理を受けていない方は、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

また、事業者による点検・修理を受けられるまでの間は、次の図に従って、給油口蓋が確実にロックしていることを御確認ください。

当該製品に限らず、石油ストーブ等に給油する際には、石油ストーブ等を必ず消火した上で、給油タンクの蓋を確実に締め、蓋が締まっていることを確認して、石油ストーブ等に戻すよう、正しい給油方法に従って安全に給油を行ってください。

### 【問合せ先】

株式会社コロナ お客様相談窓口

電話 番 号：0120-623-238

受 付 時 間：9時～17時（土・日・祝日・年末年始及び同社休業日を除く。）

ウェブ サイト：<http://www.corona.co.jp/report/oshirase.html>



**警告**

**！ 給油時消火**

●給油は、必ず消火し、火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災のおそれがあります。



**危険**



**ガソリン厳禁**

**必ず灯油をご使用ください**

●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。



**警告**

**！ 油もれ危険**

●給油後、油タンクの給油口を確実にロックし、開かないことを確認してください。

●給油後は、給油口を下にして油もれないことを確認してからストーブにセットしてください。

**①確実にロック**

「パチン」と音が**強く押す**するまで強く押す



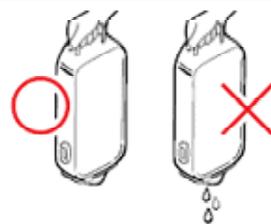
**②ロックの確認**

**持ち上げて確認**



給油口をしめたあと、先端を指で持ち上げ、開かないことを確認してください。

**③油もれの確認**



(本発表資料の問合せ先) 消費者庁消費者安全課

(製品事故情報担当) 担当：木原、清重

電話：03-3507-9204 (直通)

F A X：03-3507-9290

(株式会社コロナが製造した石油ストーブ(開放式)についての発表資料に関する問合せ先)

経済産業省商務流通保安グループ製品安全課製品事故対策室

担当：下出、鈴木、植杉 電話：03-3501-1707 (直通)

F A X：03-3501-2805

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む。)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生日都道府県	備考
A201500658	平成28年1月8日	平成28年1月14日	石油ストーブ(開放式)	NCH-S24L	株式会社ニッセイ	火災	建物を全焼する火災が発生し、現場に当該製品があった。当該製品から出火したのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	千葉県	
A201500659	平成27年12月29日	平成28年1月14日	石油ストーブ(開放式)	SX-D27WYA	株式会社コロナ	火災 死亡1名	当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が死亡した。現在、原因を調査中。	大阪府	平成20年9月17日からリコールを実施(特記事項を参照) 改修率:1.7%

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生日都道府県	備考
A201500434	平成27年9月5日	平成27年10月9日	ベビーカー	GT-S	株式会社カトージ (輸入事業者)	重傷1名	当該製品を開いたところ、当該製品で幼児(1歳)が指を挟み重傷を負った。調査の結果、当該製品は、展開時に折り畳み部に隙間が生じる構造であり、折り畳み部に警告表示等がなかったことから、幼児が右手を掛けていることに気付かず、使用者が当該製品を展開操作したため、折り畳み部のハンドルパイプと樹脂製ハンドル受け部との間で指を挟んだものと推定される。	広島県	平成27年10月14日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故として公表していたもの
A201500660	平成27年12月12日	平成28年1月14日	電熱手袋(充電式)	なし	株式会社ローネジャパン (輸入事業者)	火災	当該製品のバッテリーを充電中、当該製品のバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	広島県	平成28年1月7日に消費者安全法の重大事故等として公表済 事業者が重大製品事故として認識したのは平成28年1月8日

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故(続き)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201500662	平成27年12月23日	平成28年1月14日	扇風機	F-LM55X	東芝ホームテクノ株式会社 (輸入事業者)	火災	当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	岡山県	
A201500664	平成28年1月1日	平成28年1月15日	照明器具	FVH11400R	株式会社LDF(現 東芝ライテック株式会社)	火災	当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	東京都	
A201500667	平成28年1月5日	平成28年1月15日	照明器具	OL001538	オーデリック株式会社	火災	当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	東京都	

### 3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201500661	平成27年12月27日	平成28年1月14日	ユニットバス	重傷1名	当該製品の浴槽の縁に乗って天井を清掃していたところ、転倒し、胸部を負傷した。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	愛知県	
A201500663	平成27年12月23日	平成28年1月15日	電気こんろ	火災	施設で当該製品の上に置いていたカセットこんろのガスボンベが破裂し、周辺を破損する火災が発生した。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	徳島県	平成28年1月15日に公表したカセットこんろに関する事故(A201500653)と同一
A201500665	平成27年11月13日	平成28年1月15日	携帯電話機(スマートフォン)	火災	当該製品を充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	大阪府	事業者が重大製品事故として認識したのは平成28年1月5日
A201500666	平成27年12月16日	平成28年1月15日	電気冷蔵庫	火災	工場で当該製品を焼損する火災が発生した。当該製品の庫内の内容物が破裂した可能性を含め、現在、原因を調査中。	長崎県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成28年1月5日

### 4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議において審議を予定している案件

該当案件無し

ベビーカー（管理番号：A201500434）



電熱手袋（充電式）（管理番号：A201500660）



扇風機（管理番号：A201500662）



照明器具（管理番号：A201500664）



照明器具（管理番号：A201500667）

